

## 2023年度 南地域・家庭との連携事業 お母さん講座 記録

1 日 時 2024年2月28日(日) 10:30~11:00

2 テーマ 「まずは保護者がたのしむことの大切さ」  
～たのしいレザー作品作りで子育て応援～

3 講師 池田勝一

プロフィール ■職歴・経歴

1955年生まれ(69才)。大阪体育大学を卒業後、大阪YMCAで青少年活動(幼少年体育・サッカー指導・野外活動・宿泊研修施設・在職中に兵庫教育大学大学院入学 学校教育研究科(中退))32年間務める。退職後は、東日本大震災3.11(岩手県盛岡YMCA宮古ボランティアセンター長1年)、堺市民間人校長5年、大阪市内不登校児サテライト長1年、大阪キリスト教短期大学常務理事3年、現さかいっこひろば館長(大阪YMCAが堺市より管理運営委託)。大学院(中退)での修士論文のテーマは「指導者が学び、変われば子どもは育つ」「子どもが主役になるためには、指導者が学び育つことが大切であることを一番に考察する。親も指導者も幸せになる子育てのヒント」を体験談から具体的に伝えたい。また、現在は革細工遊びを趣味としてキーホルダーづくりを通して、子育て支援活動を行っている。

### 4 講演記録

#### (1) はじめに-学ぶことのきっかけになった事-

子どもと関わった時に、厳しく指導すれば子どもは伸びるのではないかと思ったが壁にぶつかる。自己の経験体験だけでは視野が狭く学ぶことが大切と気づき、新しい活動を担当するたびに資格研修に参加するなど自己研鑽につとめた。指導実践の中で学び気づいたこと、特に大人が実践して良い見本(デモンストレーション)を示すことが大切である。

#### (2) 幼児・少年体育活動(プレスクール・体育教室・サッカー指導)

非表現方法には三つの言語があることを学ぶ(どこで学んだかは覚えていない)。

一つ目 口頭言語 → 言葉で表現する方法

二つ目 行動言語 → 叩く・蹴る・殴る・壊す・無気力その他

三つ目 器官言語 → 熱を出す・腹痛をおこす・嘔吐等、体に変調をきたす。

以上のことを踏まえ、子どもたちの様子を伺いながら、どのような関わりをすることが必要かを判断するようになった。

- ・ 幼児期は、5歳頃までに大人の約8割程度まで神経機能が発達すると言われている。(スキヤモンの発育曲線)特に、運動能力が伸びる時期なので、ゆっくり・正確に・繰り返し遊びながら色々な運動刺激をすることが大切である。(歩く・走る・跳ぶ・はねる・すべる・登る・下りる・転がる・回る・渡る等)親子で共に運動し遊びながら大人が楽しく遊ぶ姿を見せる。子どもは、身近な親の動きを見てまねをすることから学ぶ。
- ・ 絵本との出会い 本が好き・語彙力を伸ばすためには、絵本を読んであげるだけでなく、子どもに何があったのか? 何を見つけたのか? いくつあったのか? 何色を見つけたか?等を問いかけることによって、子どもは言葉で表現することを身に付け自信を持つようになる。この時に、指導者は上手に読むことも大切ではあるがともに共感し、ほめることによって、子どもの表現力を高めるきっかけになる。親と一緒に毎日短い時間でも本(絵本・マンガ等、何でもよい)と向き合う時間を持つことで子どもも本を楽しむ習慣が身につく。
- ・ 大切にしたいこと 楽しく共にあそぶ・子どもの行動を認め評価しない・親が言葉だけでなく、見本を見せる。
- ・ 子どもの成長に合わせた指導 子どもたちの運動能力の著しい発達は3~14歳と言われ、この時期の過ごし方が運動能力は概ね決まると言われている。特に、スキヤモンの発育曲線という人間の運動神

経の発達では、運動神経の成長は、5歳のころまでに80%、14才まででほぼ100%になる。したがって年齢に合わせて運動することで、効率的に運動能力を向上させることができる。

※幼児期に身に付けたい基本動作 文部科学省:幼児期運動指針 参照。

サッカー指導では、ゴールデンエイジの3段階分類

① プレゴールデンエイジ(3~8歳) 基本的な運動動作を覚える時期

・様々な遊びやスポーツをすることが大切(身のこなしが良くなる)

② ゴールデンエイジ(9~11歳) 神経系は、ほぼ100%完成される時期

・デモンストレーションを見て自分が思ったように体で表現することができる時期

③ ポストゴールデンエイジ(12~14歳) 神経系は完成される時期

・子どもから大人の体型に成長する時期でもあるので、今まで出来ていたことができなくなることもある。あせらず基本動作を正確に反復することが大切

・コーチングで大切にしてきたこと。常に楽しく答えを教えるのではなく、試合等での声掛け(どうやった・良いところ・どうしたらいいのかな)では、子どもたちが考え行動できるようにする。又、勝敗よりも一所懸命に自分からチャレンジすることを伝える。

・価値教育(協議をしている時によく価値観という考え方にたどりつき、話し合いがかみ合わなく終わることが多かった。その時に価値観とは何かと思い価値教育の学びをした。

価値教育とは、みんなで話し合いその中から意見を出し合う、意見の中からみんなで順番を決め、みんなで実践すること。また、一番目ができない場合は二番目を選択し、みんなで実践することである。話し合いが纏らないから協議をしないでほったらかしにするのではなく、みんなでできる方法を見つけることである。

(3) 宿泊施設・野外活動(海・山・スポーツキャンプ)、教育活動として

野外活動は一般的には野外で遊ぶ(レジャー)ことを言われている。今回は、野外活動(教育活動)は、小グループ(例えば、小学生低学年には、5~6名にトレーニングを受けた指導者がつく)で日常生活から離れ活動体験をすることが多いので仲間と共に不便さ・不自由さ・不足を感じる中でいかにして、快適で楽しい生活をするか工夫することを学び、生きる力が身につく。是非とも、子どもたちに家庭とはなれた場所での体験をすることを薦める。

- ・元日本キャンプ協会C級ディレクター (自然との向き合い方、グループワーク、環境保全等)
- ・第3級アマチュア無線技士(特に、災害時は電気等が遮断されるので大変活躍)
- ・小型船舶操縦免許証2級

(4) 民間人校長として(子どもが輝く学校を目指して)の取り組み。

- ・朝礼後は先生方が落ち着いて子どもたちを迎える事ができるように教室へ送り出す。
- ・学級で問題が起これば、直ちに担任の先生と自宅に伺い報告する。(児童は安心して登校)
- ・地域の活動に積極的参加し、学校をも開放した。(開かれた学校にすることで、地域に支えられる)
- ・モンスターペアレンツはいない。(親は児童を守る義務・権利がある。子どもを守ることは親として当然)
- ・校長室は開放し、いつでも受け入れることができるようにした。

(5) 子を持つ親として

- ・子は親の鏡(挨拶ができる人、ありがとうと言える感謝の心を持つ)
- ・自分の思いを表現でき、他の人の意見をつぶさない人
- ・子どもの幼小中の時(子どもを守る)
- ・長女の幼稚園登園拒否問題の対応

長女は通園バスのない幼稚園(徒歩で約20分)に通っていた。ある日突然、園に行く時間になるとお腹が痛いと言きだし登園を拒否していた。休園することなく、家内は連れて行っていたが約半月が経

った頃、長女から何故泣いていたかの説明があった。園バスに乗りたいために駄々をこねたらバスに乗れる幼稚園に行けると思ったようである。この話を聞いた時に、我が子ながら素晴らしいと思うようになった。表現方法は違っていたかもしれないが子どもと向き合うことが大切であることを気づかされたことである。

・息子の小学校登校拒否問題の対応

息子が小3年生の時に朝玄関で泣いていた。学校で何かあったのかと尋ねても返事がなく、泣くばかりであった。頭の毛を見ると右側面の髪の毛が全くなかった。どうしたかと聞いても返事がない。よくよく聞くと先生に勉強のことで注意され自分で授業中に抜いていたようである。直ちに学校に伺い担任の先生に、勉強のことは期待していないので、子どもを受け入れていただきたいと話す。子どもは簡単には変わることは難しいが、子どもの行動を受け入れることが必要だと私は思っている。その後は問題なく通学した。

・中学校でのお金の問題の対応

学校からお子さんの財布からいたずらでお金(1,000円)を抜かれたと連絡があった。次の日に、その後の対応を伺いに行く。学校長には、教育委員会・警察に通報されましたよねと伺う。問題が遊びでは済まないうやむやにはしてはいけないということ子どもたちにしっかり伝えることが教育にも拘らず、お金を取られた方が悪いような対応が納得できなかった。保護者として子どもたちが大人になるためにルールを守ることを伝えることが大切であった。

(6) 親として子どもに身に付けてほしい習い事

水泳四泳法 (全身運動・心肺機能が高まる。命を守る)

そろばん(脳の活性化、数字は生きている間は切り離すことができない)

書道(集中力を高めることができる)

音楽(リズム・言語能力の促進(ワシントン大学の研究))

(7) 保護者も楽しく共にあそぶために(たのしいレザー一作品作りで子育てを応援いたします。)

基本はキーホルダーづくりをしていたが、本格的に革細工に興味を持ち、革のカバンづくり(基本的な型紙の作り方・最初に帆布生地のとートバッグ・革のハンドバック等製作)を2年間学ぶ

5 紹介したい言葉 (大阪YMCA80年史より)

**アメリカインディアンの教え**

子供たちはこうして生きかたを学びます

批判ばかり受けて育った子は非難ばかりします

敵意に満ちたなかで育った子はだれとでも戦います

ひやかしを受けて育った子ははにかみ屋になります

ねたみを受けて育った子はいつも悪いことをしているような気持ちになります。

心が寛大な人のなかで育った子はがまん強くなります

はげましを受けて育った子は自信をもちます

ほめられる中で育った子はいつも感謝することを知ります

公明正大な中で育った子は正義心を持ちます

思いやりのある中で育った子は信頼する心(信仰心)を持ちます

人に認めてもらえる中で育った子は自分を大事にします

仲間の愛の中で育った子は世界に愛を見つけます

作 Dorothy Law Nolte(ドロシー・ロー・ノルト)

訳 吉永 宏 (元YMCA職員)

6 著書 学校法人ノートルダム清心学園理事長  
渡部和子「置かれた場所で咲きなさい」

「相手が挨拶してくれない、いたわってくれない、わかってくれないと“**くれない族**”にならないように」  
「置かれた場所に不平不満を持ち、他人の出方で幸せになったり不幸せになったりしては、私は環境の奴隷でしかない。人間として生まれたからには、どんなところに置かれても、そこで環境の主人となり自分の花を咲かせよう。」

※著書より一部抜粋

「保護者が自然体で先頭に立ち、子どもたちと  
共に楽しく遊ばしましょう。」